第三回ＮＧＯ－ＪＩＣＡ合同ワークショップ

２００４．１．３０

参加型開発講義

（財）日本国際交流センター
チーフ・プログラムオフィサー　毛受（めんじゅ）　敏浩
グラスネット http://www.jcie.or.jp/database/

１．ＮＧＯの活動

（１）緊急支援型

（２）アドボカシー型

（３）社会開発型

２．国際と国内の壁

アカデミックな壁

海外志向のＮＧＯスタッフ

３．ソーシャルキャピタルの視点

地域社会の結束力、一体感

タイ東北部の溜池の事例

ソーシャルキャピタルを高めることの難しさ

日本のむらおこしとソーシャルキャピタル

４．CLIC(Community & Local International Cooperation)

地域社会を巻き込んだ国際交流と国際協力

タイの産業村と日本の道の駅

国を超えたのコミュニティ同士の連携の可能性

問われる日本の国際協力㉞

市民交流時代の国際

近年、日本各地の自治体や市民団体による国際協力が注目されつつある。政府開発援助(ODA)ではそのような地域との「連携型」協力が推進されているが、各地の特性を活かしきれていない。ここに一つの21世紀における日本型国際協力のモデルが提示された。

(財)日本国際交流センター
シニア・プログラム・オフィサー
毛受 敏浩

広がる地域レベルの国際協力

ODAの進むべき方向として国民参加型の国際協力の必要性が叫ばれている。国際協力事業団(JICA)や国際協力銀行(JBIC)はそれぞれ自治体やNGOとの一層の連携をめざしてさまざまな取り組みを始めている。しかし、地域社会や市民の持つ潜在力をフルに発揮するには、政府機関のODA事業に彼らを参画させようとするのではなく、むしろ彼らの行う多様な活動を国際協力の新たな類型と認め、それを支援するという発想の転換が求められる。

そこで21世紀にふさわしい新たな国民参加型の国際協力のあり方として、自治体、地域社会による「コミュニティー・地域主導の国際協力(Community & Local International Cooperation≒CLIC、以下クリック)」を提言したい。

自治体などによる地域レベルで行われている国際協力事業には通常のODAに見られないいくつかの特徴がある。ひとつは協力活動とあわせて市民による交流事業が行われ、市民参加型の活動となるケースが多いことである。たとえば、岡山県では92年から中国の江西省と姉妹提携し、大気汚染についての技術協力を行ってきたが、その一方で江西省から中学生を招き、中学生同士が環境問題について話し合う、「こども国際エコチャット事業」を実施している。つまり交流事業を組み込むことで地域ぐるみの広がりのある協力活動が展開されている。

また姉妹都市間の国際協力活動では、多くの自治体は途上国のパートナーの間でも対等な立場を原則とし互恵的な協力関係をめざそうとする。援助を行うだけでなく、日本側も教育面や文化面で途上国から見返りを得るのである。文化・芸術面での公演や展覧会の開催や姉妹校提携による教育交流がそうであるが、直接、実利に結びついた事例も見られる。

中国山東省と姉妹提携を結んだ山口県は、山口県以外では栽培しないことを条件に山東省から肥城桃を譲り受け、県の特産品として売り出している。また技術研修の受け入れをきっかけに日本の地場産業が中国に進出した例もある。

自治体や草の根の地域団体の行う国際協力は、(1)国際協力と市民交流の要素をあわせもつ多様な活動であること、(2)地域のさまざまな市民団体がかかわること、(3)対等な関係に立ち互恵的な利益を求める、という特質を持っている。政府のODAが途上国の援助のみを視野に入れて行われるのに対して、地域社会の国際協力は、途上国への一方的な援助ではなく、双方向の活性化をめざした活動であるといえよう。

ODAの"連携型協力"の限界

問題は政府機関の自治体への連携事業が自治体の持つ多様な国際協力に対応できていないことである。政府のODAは通常、途上国サイドでの案件発掘に始まり、案件形成、実施などのプロセスに沿って実行される。現在の国民参加型ODAの枠組みは、そのプロセスに自治体を参加させようとしている点に連携型協力の限界がある。つまり、地域レベルの多様な国際協力を無理矢理、ODAの枠内にはめ込もうとするため、地域社会の持つダイナミズムを活かしきれないのである。

JICAでは長年にわたり自治体との協力を得て数多くの研修員受け入れ事業を実施し、最近では開発パートナー事業を開始した。またJBICは、岐阜県の自治体、NPOとの協力により「道の駅」事業をタイ国内で展開する可能性を探るなど、地域社会との協力を加速させる姿勢を見せている。国民参加のかけ声のもとで政府機関が連携型協力と呼ばれる新たな取り組みに熱意を示している。

協力「CLIC」

岡山県の「こども国際エコチャット」事業では、中国・江西省から中学生を招き、県内の中学生と地球環境保全について話し合う。写真は倉敷市の環境監視センターを訪問した江西省の中学生たち（岡山県国際課提供）

しかし、草の根国際協力の特色である交流などの多様な活動が十分に尊重される仕組みではなく、従来型の援助の部分だけに焦点を当てた連携となっているため、参加できる自治体は限られているのが現状である。

日本の地域社会の持つ力を最大限に引き出し、国際協力に活用しようとすれば、自治体や地域団体が途上国とパートナーシップを組んで行うさまざまな市民参加型の協力活動全体を受け止め、広義のODAの一環として認知することこそが重要である。地域社会の協力活動は交流の要素があるからこそ広がりと活力を持つのであり、国民参加型の国際協力として、交流活動も含めて政府機関は総合的な支援をするべきである。

途上国の草の根の開発の視点からも、市民同士が相互理解を深め、信頼感を深めながら相互に協力しあうことができれば、従来の単なる援助活動より、交流を伴う国際協力の方が21世紀型の国際協力のあり方であるといえる。

日本発の国際協力モデル、「クリック」

そこで日本の国民参加型ODAの新しいモデルとして、提案したいのが「コミュニティー・地域主導の国際協力＝クリック」である。クリックとは、地域社会（自治体および草の根の地域団体）が政府機関の協力を得ながら主体的に途上国の地域社会と対等、互恵的な立場を原則として国際協力事業を行うことを指す。クリックのアクターは自治体だけではなく、地域団体（NPO、NGO、商工会議所、農協など）が含まれ、またそれらが相互に連携して地域ぐるみの協力活動を行う点を特徴とする。

クリックには、自治体による技術移転を目的とした研修生の受け入れ、専門家の派遣に留まらず、NGO、NPO間の交流・協力活動、さらに学校の生徒同士の交流や、商工会議所、農協などの地域経済団体などの交流・協力も重要な構成要素である。つまり、技術協力だけにウェートを置くのではなく市民参加によるいわゆる「交流」も重要な要素として含まれる。交流が含まれることで専門家同士の閉ざされた技術協力から、多様な市民が協力活動に関わる可能性が広がり、国際協力が地域社会に根ざした広がりのある取り組みへと発展する可能性が生まれる。

クリックによる途上国への貢献は、技術研修員の受け入れによる人材育成や地域社会の持つノウハウの伝授、さらに交流による双方の市民のエンパワーメントが柱となろうが、自治体の持つ技術ノウハウを活用したインフラ整備協力も含まれ得る。上下水道や環境関連施設の建設や維持管理に日本の自治体のノウハウを活かすことや、また地場産業が国際協力事業に参加することもクリックの一部として考えられる。

クリックを全国的に展開していくプロセスとして、政府機関は地域社会の意見を尊重しながらクリックのモデルプログラム化を図るとともに、クリックを推進しようとする自治体や地域団体に財政的、技術的支援を行うことが考えられる。クリックは地域社会の自主的な活動ではあるものの、JICAの研修員受け入れや専門家派遣制度とも関係が深く、また大規模なクリック事業の実現にはJBICの円借款も視野に入ってこよう。さらに、国際協力の専門機関としてJICAやJBICは、参加型開発の手法としてクリックの有効性を高めるための研究や自治体へのアドバイスをあわせて行うことが求められる。そして、国際協力の視点から日本の地域社会に存在する有益なリソースの発掘を行うことも必要である。

これまでJICAの地方支部は、JICAと地域社会との協力を模索しながらさまざまな活動を行っているが、クリックというビジョンを提示することによって、より地域へのアプローチが容易になり総合的な活動が可能になろう。クリックの理念そのものはこれまで地域社会で行われてきた国際協力の延長線上にあるものであり、自治体にとっては馴染みのあるものである。すでに一部の地域では多様なアクターが参加してダイナミックな交流と協力活動が実施され、クリックと呼ぶにふさわしい事業も実際に行われている。

今、ここでクリックを提唱する意義は、国民参加型ODAを地域社会側の視点から立案することで、日本と途上国の地域間協力の一層の活性化を図り、全国にその動きを広げていく点にある。グローバル化に直面している国内の地域社会では、アジア地域をはじめグローバルな連携を深める必要性が高まっており、地域の主体性と多様な活動を容認するクリックは、海外のパートナーと強固な連携を築くモデルを提示する意味でも時宜を得たものとなろう。

多くの地域社会がクリックに参加すれば、市民参加型の地域ぐるみの国際協力が全国に定着してゆこう。成功裡に行われているクリックでは、地域住民同士の間で顔の見える関係が構築され、プロジェクト期間で終わらない継続的な協力が行われている。その交流・協力は双方向性を持ち、しかも個人レベルから家族や地域社会を巻き込んだ関係に発展していく。地域社会が国際協力に主体的に取り組むクリックは地方分権時代にふさわしい日本発の国際協力モデルといえよう。

めんじゅ・としひろ

兵庫県庁勤務を経て、1988年より財日本国際交流センターで草の根の国際交流・協力活動、自治体の国際化戦略について調査研究を担当。現在、岡山県国際化円卓会委員、NGO活動環境整備支援事業選考・評価委員、恵泉女学園大学講師などを務める。著書に「地球市民ネットワーク」など。

じゃっど

NGO-JICA 合同ワークショップ

“じゃっど” 会長　帖佐　理子（ちょうさ　みちこ）

NGO0JICA 連携事業事例

草の根技術協力事業（支援型）（旧・小規模開発パートナー事業）

ラオス国「鉤虫対策プロジェクト」

1）応募から活動開始まで

“じゃっど” は、ラオス国で学校保健援助を行っている。少ない予算で、少しずつ活動していた。学校レベルでの活動だけでは、将来の継続を望めない。国レベルに影響を与えなければ、ラオスとしての活動は始まらない。と考えた。JICA の大きな事業費をいただき、JICA の名前で行政レベルに入り込み、「ラオスのラオスによるラオスのための学校保健」に近づけるのか可能性を図りたかった。発展的撤退を目標に現在も活動している。

2000 年 8 月	鹿児島 JICA から小規模開発パートナー事業の紹介
2000 年 8 月 20 日	募集要領取り寄せ
2000 年 10 月 16 日	応募
2000 年 12 月 27 日	採択の通知
2001 年 7 月 19 日	“じゃっど”日本人スタッフ派遣：NGO 登録他準備のため
2001 年 9 月	“じゃっど”専門家プロジェクト候補地視察
2001 年 10 月	“じゃっど”代表他プロジェクト候補地視察、カウンターパート検討
2001 年 12 月 26 日	ラオス国で NGO 登録申請
2002 年 1 月 22 日	ラオス国、NGO 登録完了
2002 年 5 月 7 日	MOU 署名式、スタッフ滞在 VISA 申請
2002 年 6 月 11 日	日本人スタッフ滞在許可
2002 年 6 月 27 日	JICA と小規模開発パートナー事業業務委託契約（8,506,050 円）
2002 年 7 月 1 日	事業開始
2003 年 6 月 30 日	事業終了

2）長所であり、短所でもあり。

始まるまでは、当方の負担。

活動内容、費用の割り振りは、当方が決定。融通性。

相手国からは、JICA と同じと見なされる。

じゃっど

実施計画書

平成 14 年度小規模開発パートナー事業

案件名(英)Hookworm control project in Vientiane Municipality
(和)鉤虫対策プロジェクト

作成日　平成 14 年 5 月 1 6 日
担当国内機関　九州国際センター

相手国関係機関(英)Vientiane Health Department College of Health Technology
(和)ヴィエンチャン市保健局 医療技術短期大学

実施団体(NGO)名(英)JADDO
(和)じゃっど

目的・要請背景・経緯

目的：1-学童期の子供の鉤虫感染を予防する。
2-検査技師の技術向上を図る。

要請背景：
1-鉤虫感染は、ラオスの子ども達の栄養障害や貧血の主たる原因であり、とくに学童期の子供の体力・知力の発達に大きな影響を及ぼしている。鉤虫の制圧対策には、駆虫剤による駆虫と、トイレを中心とした衛生環境の整備が必要である。しかし、ラオスではまだトイレの普及率が低く、寄生虫予防の対策が十分に取られていない。
2-ラオスでは、検査技師の技術レベルが低く、集団の検便検査ができる技術者がいない。

経緯：1992 年より小学校を対象に学校保健指導を行っている。毎年 6～10 校を選定し、健康診断と駆虫剤投与を行ってきたが、再感染が多く認められた。寄生虫検査・駆虫剤投与と同時に、トイレ設備を整え、子供達の行動変容を促がす事が感染予防に効果があると考え、このプロジェクトを行なうこととなった。

実施プロジェクト概要・活動項目

トイレ建設：ヴィエンチャン郡の小学校 4 校にトイレを建設する。
寄生虫検査：駆虫剤投与の前後に検便を行なう。
鉤虫感染予防ワークショップ：村長及び小学校の教師に対し、鉤虫感染の原因、予防方法、治療、保健の授業の進め方についてのワークショップを行なう。
検査技師養成セミナー：医療技術短期大学検査技師科の学生を対象に、集団検査の手法について教授する。実習として寄生虫検査に参加。

じゃっど

プロジェクトの全体計画

	2002						2003					
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
トイレ建設	→	→	→									
鉤虫感染予防ワークショップ												
内容選定	→	→	→							→	→	
講師・参加者選定	→	→	→									
資料作成	→	→	→							→	→	
ワークショップ実施			→	→	→						→	→
寄生虫検査												
検体採取				→		→	→	→	→	→	→	
結果解析				→	→	→	→	→	→	→	→	→
駆虫剤投与					→	→	→	→	→	→		
検査技師養成セミナー												
集団検査法トレーニング	→	→	→									
実習				→	→	→	→	→	→	→	→	→

年次活動計画

(1)　目的

学童期の子供たちの鉤虫感染を予防する。検査技師の技術向上を図る。

(2) 活動内容

・ヴィエンチャン郡の小学校４校にトイレを建設する。
・対象校での身体検査および検便を行なう。
・検便で鉤虫が認められた子供に対して駆虫剤を投与する。
・村長及び小学校の教師に対し、鉤虫感染の予防ワークショップを行なう。
・検査技師養成セミナーを開催する。

(3) 実施計画額

8505 千円（うち消費税等 405 千円）

		活動時期 平成 14 年			
		Ⅰ 7 月～9 月	Ⅱ 10 月～12 月	Ⅲ H15.1 月～3 月	Ⅳ
活動	寄生虫検査		→	→	
	鉤虫感染予防 ワークショップ	→			
	検査技師養成 セミナー	→	→		
要員	調整員	→	→	→	→
	プロジェクト マネージャー	→	→	→	→
	プロジェクト アドバイザー		→		
基盤整備	トイレ建設	→	→		
資機材投入	顕微鏡５台	→			
	スライドガラス	→			
	検査薬	→			

年次活動計画

(2)　目的

学童期の子供たちの鉤虫感染を予防する。検査技師の技術向上を図る。

(2) 活動内容

・ヴィエンチャン郡の小学校 4 校で寄生虫検査を行なう。
・検便で鉤虫が認められた子供に対して駆虫剤を投与する。
・村長及び小学校の教師に対し、鉤虫感染の予防ワークショップを行なう。
・プロジェクトの評価を行う。

(3) 実施計画額

1462 千円（うち消費税等 69 千円）

		活動時期 平成 15 年			
		I 4 月～6 月	II	III	IV
活動	寄生虫検査	→			
	鉤虫感染予防 ワークショップ	→			
	検査技師養成 セミナー（実習）	→			
	評価	→			
要員	調整員	→			
	プロジェクト マネージャー	→			
基盤整備					
資機材投入					

じゃっど
（アジアの子供たちを援助する会）JADDO
じゃっど：鹿児島弁で「そうだ。賛成。」の意味

今なお開発途上国では２億人以上の５歳未満時が栄養不良の状態にあり，毎日３万人の子供たちが予防可能な病気で命を落としています。たとえ乳児期を生き抜いても，初等教育を受けられず，健康に発達してゆくことのできない子供たちが大勢います。

このような子供たちが健康に育ち，そして教育を受けられるように少しでもお手伝いしようという目的で生まれた会です。

活動対象　ラオス人民民主共和国
　ビエンチャン市とその近郊小学校の児童・教師

活動目的　プライマリーヘルスケアの向上
　（予防医学的保険衛生知識の普及）
　現地活動名：
　「小さなお医者さんプロジェクト」

会員状況　国内会員１９９名（2000年３月現在）

国内活動　広報誌「じゃっど新聞」の発行
　机イス募金の募集
　パネル展，各イベントへの参加
　じゃっどツアー（現地視察）の実施

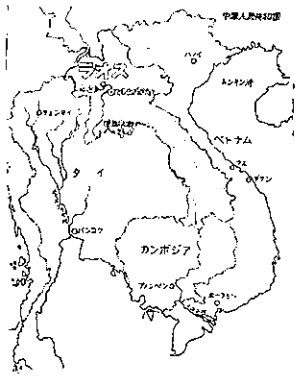
子供たちが元気に学校に行けるように，
あなたもお手伝いくださいませんか？

年会費；　2,000　円
振込先；郵便振替　０２０５０－２－４７４６
口座名　じゃっど

会員以外にも，随時「机イス募金」の募集も行なっています。
詳細は，事務局までお問い合わせください。

ラオスという国は

正式名称
　ラオス人民民主共和国
面　積
　23万6800㎢
　（日本の本州ほど）
人　口
　４８０万人
首　都
　ビエンチャン
独　立
　1949年7月19日



インドシナ半島にあるラオスは，周囲をベトナム，中国，ミャンマー，タイ，カンボジアの５カ国に囲まれた内陸国です。その国土の北から南までをメコン川が貫くように流れていますが，メコン川はそのほとんどの部分でタイとの国境を形成しています。地勢的には，大きく北部の山岳地帯南部の平野地帯に分けられます。

宗　教
　仏教徒が95％を占めるが国教ではない。
主要言語
　公用語はラオス語。その他各民族は独自の言語を使用している場合もある。

１９７６年の教育政策の根本的改正により，それまでの旧宗主国フランス語を主とした教育制度から，５－３－３－３～６制のラオス語による教育制度になり，小学校の５年間が義務教育となりました。
教育改革において打ち出された全国の村に小学校を建設するという方針も，建設費を村の負担としているため，生活に余裕のない村人たちは総出で学校を建設するものの十分な学校施設といえない校舎での教育が行なわれています。

じゃっど
（アジアの子供たちを援助する会）JADDO

事務局
〒８９５－００５２
鹿児島県川内市神田町１１－２０
若松記念病院内
会長・事務局長　帖佐理子
事務担当　宮脇美智子
TEL・FAX　0996-27-0193

jaddo@po2.synapse.ne.jp
http://www2.synapse.ne.jp/jaddo/

JADDOの活動内容

学校保健教育

学校の整備・教育教材の整備

・*校舎の建設，補修*

住民の意識向上を図るため，基本的に材料のみの援助。建設に関しては住民自ら行なう。

・*トイレ，井戸の設置*

・*黒板，机，椅子の援助*

教師への健康教育

・*教育セミナーの実施*

ビエンチャン特別市，サイセタ郡の全小学校教師対象に実施。保健教育，教育方法を中心としたセミナー

・*保健教材作成，配付*

子供への健康教育

・*健康診断*

重点校１～８校を決め（２年継続）ラオス人医師による健康診断をはじめ健康情報提供，学校衛生視察を月１日以上実施。

その際，身体測定，駆虫剤投与も定期的に行なっている。

特定非営利活動法人（NPO法人）

地球緑化の会

EGAJ EARTH GREENERY ACTIVITIES JAPAN

この法人は、日本及びアフリカ諸国の人々に対して、全ての生命は自然によって生かされているという生態系の摂理を生かしながら、今まで人類活動が荒廃させてしまった自然環境の回復、保全に関する事業を行い、また、食糧の自給など現地の人々の自立を促すと共にアフリカ諸国の人々との交流を通じて、我々日本人の生き方や暮らし方を考え、自然と共生する豊かな社会の形成に寄与することを目的とする。

地球緑化の会は熊本県宇土市に本部があり、これまでアフリカのタンザニアにおいて自然の生態系を生かし、環境保全に関する活動を行ってきました。

主な活動は、砂漠化防止や地球温暖化防止策の一環として植林活動や食糧増産対策として稲作研究があり、少しづつですが成果が現れる段階になりました。植林活動では、シロアリを敵視せず、生態系から見れば分解者という所に着目し、植林後の根元に間伐した枝等を敷き詰め、餌を与える方法で行ってきました。植林した木は、ほとんどシロアリに食害されることなく8m程まで成長し、間引きした木は、村人の燃料及び建築物の柱として供給できるまでになりました。

現在では、モデル農場を開設した時の参加農家の村人が率先して普及活動を行っており、今年度は、新たに6つの植林グループが発足、育苗場や井戸まで自分達の手で作るまでになりました。

稲作研究では、半乾燥地での稲作増産を目指して、マルチ稲作（稲の苗と苗の間に藁や草を敷き詰め、乾燥防止、雑草防除、有機物の補給等の効果が得られる）農法で取り組んでいます。

10年前に当会が植林した森

植林を行う植林グループの一人

入会・寄附のご案内

当会の活動は、皆様からの会費や寄附金及び政府機関や民間団体の助成金によって支えられています。主旨にご賛同頂ける方は、是非ご入会下さい。会員の方には、定期刊行物を年四回発行、スタディーツアーのご案内、ビデオの貸し出し等を行っております。

年会費　個人A会員6,000円、個人B会員12,000円、個人C会員60,000円
団体A会員30,000円、団体B会員100,000円
寄附金　随時受け付けております。
郵便振替口座番号　01970-2-13000
加入者名　地球緑化の会

■お問い合わせ先
特定非営利活動法人　地球緑化の会（Earth　Greenery　Activities　Japan）
〒869-0457　熊本県宇土市宮庄町430　轟学苑内
TEL:0964-22-1924　FAX:0964-22-0923
http://www.h2.dion.ne.jp／~ egaj/　　E-MAIL:egaj@d5.dion.ne.jp

EGAJ

あなたも身近に出来る国際協力

たばこ1本で苗木3本分

ジュース1本で苗木30本分

携帯3分通話で苗木10本分

タンザニアでは苗木が
1本約4円で購入できます。

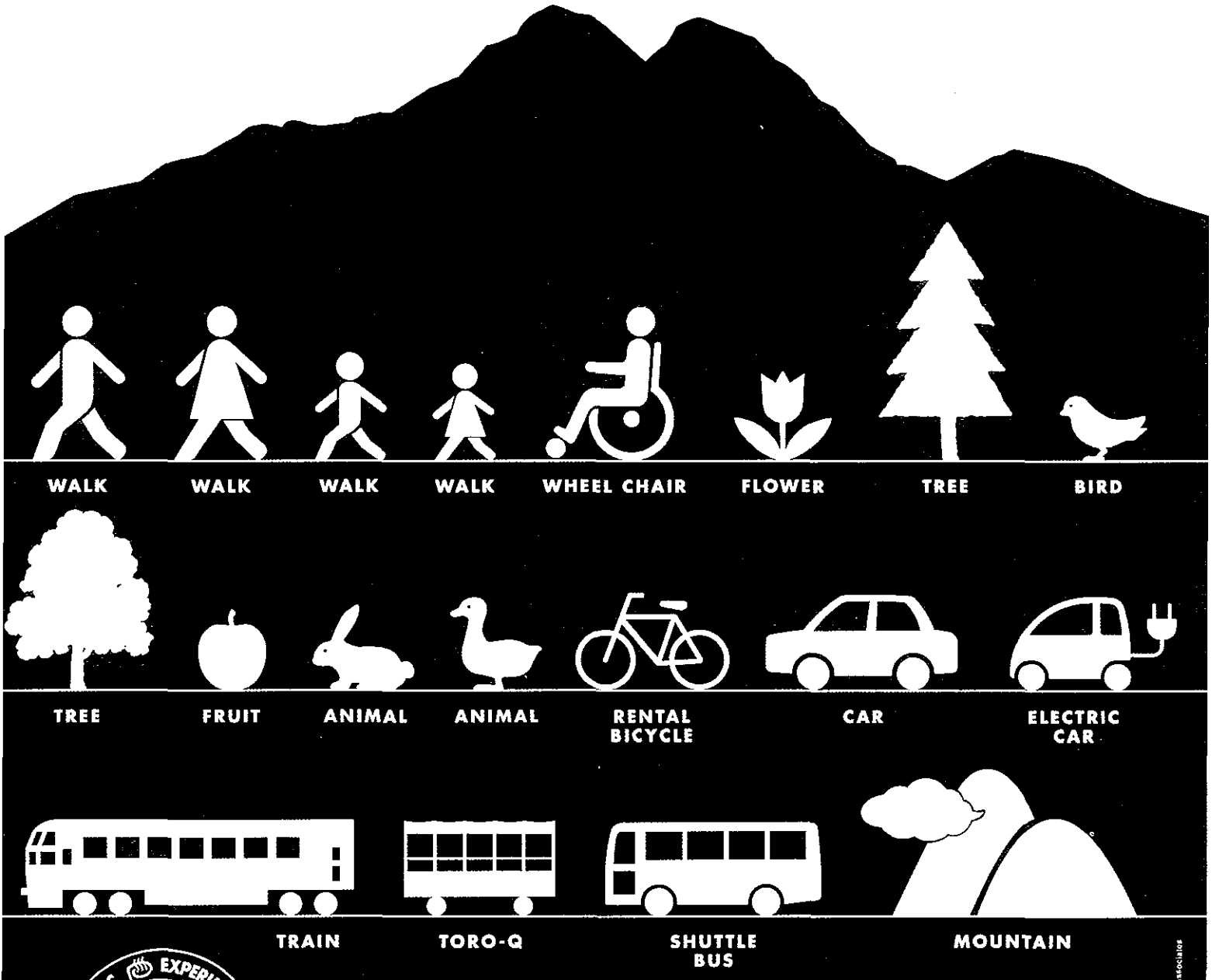
寄付金、募金箱設置についてのお問い合わせは、地球緑化の会事務局へ

特定非営利活動法人
地球緑化の会
EARTH GREENERY ACTIVITIES JAPAN
EGAJ
〒869-0457 熊本県宇土市宮庄430
TEL 0964-22-1924
FAX 0964-22-0923
e-mail:egaj@d5.dion.ne.jp
http://www.h2.dion.ne.jp/~egaj/

湯布院交通実験

『歩いて楽しいまちを目指して…』

～平成14年度 湯布院町交通実験報告書（概要版）～



YUFUIN TRAFFIC EXPERIMENTATION 交通実験 湯布院交通実験

湯布院町まちづくり交通対策協議会

DESIGNED by Eiji Mitooka + Dori Design Associates

～CONTENTS～

1. 交通実験の主旨と背景
～なぜ交通実験をしたの？～ p.1

2. 交通実験の概要
～どんな交通実験をしたの？～ p.2

3. 交通実験の結果
～各実験ﾒﾆｭｰの利用者･交通量の変化～ p.3

4. 交通実験の評価
～交通実験をしてわかったこと～ p.10

5. 今後のすすめ方
～これからの湯布院町の取り組みについて～ p.14

「お 礼」

平成14年11月23日･24日の2日間にわたり実施いたしました交通実験につきましては、町民の皆様をはじめ、湯布院町を訪れていただいた方々の深甚なるご理解とご協力、またボランティアスタッフとして参加していただいた皆様からの絶大なるご尽力により無事終了することができました。特に、実験区域の皆様や関係機関の皆様には、大変お忙しい時期にもかかわらず、実験前より一方ならぬご支援を賜りましたことにつきまして、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

この実験や調査で得られたデータ等については、今後交通施策体系の確立に向けた総合交通計画を策定するための基礎資料としていきたいと考えております。

今後とも湯布院のまちづくりにご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

湯布院町まちづくり交通対策協議会長
湯布院町長　吉村格哉

1. 交通実験の主旨と背景　～なぜ交通実験をしたの？～

今回の交通実験は、「湯布院らしい交通のあり方」を町民の皆さんと考えていくための検討材料を入手するために行ったものです。

1．湯布院町の交通の問題と背景

湯布院町では昭和３０年代後半以降４０年間にわたって、生活型保養温泉地を目指した取り組みが行われて来ました。昭和５６年に年間観光客数が２００万人を突破し、今では人口１万２千人の町に、約３８０万人の観光客が訪れる町となりました。週末などのピーク日には２万人とも３万人とも言われる方々がこの町を楽しんで頂いています。

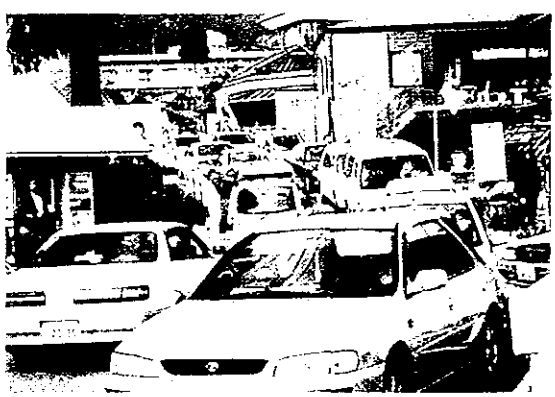
このように発展を続けてきた湯布院町にも最近大きな課題が発生しています。例えば、「生活型観光地としての観光と住民生活との間の課題」「観光業と農業との間の課題」「景観・風景に関わる問題」「交通問題」などです。特に近年では観光自動車の増加、大型観光バスの増加によって「歩いて楽しむまち」とは言えない状況が生まれています。

2．交通実験をする目的

この様な状況の中で、湯布院らしい交通のあり方に関して、様々な意見があり、何を目指したら良いのか、何が正しい姿なのか、町をあげて考え、大きな方向性を見出していかなければならない時期にきています。

今回の交通実験は、このような湯布院らしい交通のあり方を町民の皆さんと考えていくための検討材料を入手するために行うものです。そのために、まだ町民の合意形成が図られておらず、すぐに実際の施策とすることは難しいものであっても、期日を限ってその様な状況を作り出し、実際に観光客や町民の皆さんがその場を体験してみた上で、掘り下げた議論を重ねていくことが重要である、と考えました。

この交通実験をもとに、湯布院町の暮らしのための交通と観光交通がどのように折り合っていけるかを探り、折り合いのための総合交通計画を町民の皆さんと議論し、策定した上で、その計画に基づいて具体的な施策を実施していくことを目指していきます。



休日には車・人・自転車が混在して混雑する湯の坪街道周辺

2. 交通実験の概要　～どんな交通実験をしたの？～

2-1.　実験の目的と実験メニュー

3つの目的と7つのメニュー

今回の交通実験は、3つの目的に応じた7つのメニューを組み合わせた「パッケージ型」の実験を行いました。（☞詳細図はp.4～7）

1.中心部へ流入する観光自動車を減らす実験

①パーク＆バスライド実験
道の駅に臨時無料駐車場を設置
中心部へはシャトルバス運行

②パーク＆レールライド実験
南由布駅周辺に無料臨時駐車場設置
由布院駅まで臨時トロッコ列車運行

③田園地区に無料駐車場設置実験
町内観光中心部の周辺地帯（田園地区）に、無料臨時駐車場を設置

2.中心部内の観光自動車の無駄な動きを減らす実験

④駐車場予約システム実験
中心部の駐車場を事前予約制にし、駐車場探しや満車にまるうろつき交通の軽減

⑤観光バス乗降システム実験
観光バスの専用乗降場を亀の井バスターミナルに設置

3.歩いて楽しいみちをつくる実験

⑥観光自動車の乗入制限実験
観光中心部の一部区間で観光自動車の乗り入れ・通行を制限

⑦レンタサイクル実験
町内5箇所で乗り捨て自由のレンタサイクルを提供

4.その他の関連実験

8 実験関連情報提供システム
マスコミ報道・広告・チラシ配布等によるPR、駐車場の位置、空満情報等の総合的・体系的提供

9 実験関連各種サービスの実施
各種の制限が強制的なイメージを伴わないような湯布院らしいイベント的演出

10 景観に関する実験
道路情報案内看板、シンボルゲート、ポスター、チラシ、特典用バッチなど、交通実験に関わる様々な物を統一したマーク・デザイン・色で揃えたトータルデザインコントロールの実施

2-2.　実験スタッフ

ありがとう！多数の町民ボランティア参加

今回の交通実験には、2日間に町内外から約600名（２日間延べ1,412名）のボランティアスタッフによって行われました。町民の約5%に相当する一般ボランティア参加による交通実験は、全国でも随一のものでした。

◇ボランティアスタッフ参加総数　※「実験」各種実験メニューのスタッフ「調査」交通量調査スタッフ（単位：人）

	登録人員	※	23日AM	23日PM	24日AM	24日PM
1.温湯地区（岳本,湯の坪,津江,中島）	54	実験	11	6	15	10
		調査	19	9	4	5
2.消防団	15	実験	1	1	11	11
		調査	2	3	1	0
3.自衛隊	32	実験	5	5	5	5
		調査	5	5	2	2
4.保育園、幼稚園、PTA	20	実験	3	3	2	2
		調査	5	1	9	8
5.町ボランティア協議会 社会福祉協議会	11	実験	0	0	0	0
		調査	7	3	4	3
6.町内各種ボランティアグループ	17	実験	6	6	8	9
		調査	4	6	2	1
7.JAゆふいん	8	実験	6	6	2	2
		調査	0	0	0	0
8.新町・由布見通り商店会 新町青年会	8	実験	2	0	0	2
		調査	0	0	4	4
9.商工会関係・事務局	13	実験	9	10	8	8
10.銀行関係	23	実験	2	1	4	1
		調査	8	8	3	2
11.由布院温泉観光協会・旅館組合、総合事務所	77	実験	42	39	38	40
		調査	2	3	2	2
12.湯平温泉観光協会	9	実験	0	0	0	3
		調査	5	0	0	1
13.その他町内企業	13	実験	5	4	5	3
		調査	4	0	1	1
14.一般町民	24	実験	12	10	9	6
		調査	1	2	2	1
15.交通指導員	12	実験	10	8	6	7
16.県庁（土木事務所・県観光協会含む）	41	実験	13	15	12	10
		調査	11	12	5	6
17.大学関係	83	実験	59	51	41	41
		調査	16	25	6	6
18.事務局関係者	20	実験	12	12	13	13
		調査	7	7	7	7
19.役場職員	121	実験	92	92	99	99
		調査	8	8	3	3
合　計	601	実験	290	269	278	272
		調査	104	92	55	52
		総計	394	361	333	324
1日あたり延べ人数			755		657	
2日間合計延べ人数			1,412			

3. 交通実験の結果 ～各実験メニューの利用者・交通量の変化～

2日間で約35,000人の観光客と延べ1,412人のボランティアスタッフが、交通実験を体験しました。またパーク＆ライド実験や田園地区駐車場によって、全体の約1/4の車が盆地周辺部に駐車し、中心部への集中を緩和させることができました。

11月23日、24日に約35,000人の観光客が湯布院町を訪れ、何らかの交通実験メニューに参加して頂きました。

この2日間に盆地内中心部に停めた車は推定で約3,500台ありました。一方、実験で用意した道の駅駐車場、南由布駅周辺駐車場、及び田園地区無料駐車場に停めた車は合計で1,229台あり、全体のおよそ1/4が周辺部に駐車したことになり、中心部への集中を緩和させることができました。

また観光中心部では観光車両の進入制限を行いましたが、他地区などへの影響として特段の混雑や混乱もなく、全体としてみれは盆地内の交通混雑の緩和に効果がありました。

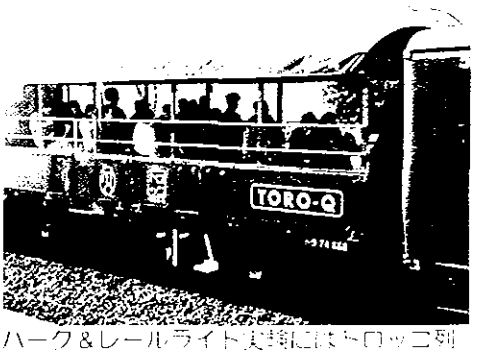
交通実験の様子

町内各所に実験案内所を設置　ボランティアスタッフがご案内・説明

町内外から大勢のボランティアスタッフが参加

ポーターさんはトータルデザインの作成物でご案内・説明

実験当日の朝、ボランティアスタッフの出発式　各人それぞれの持ち場へ出発！



パーク＆レールライト実験にはトロッコ列車を臨時運行

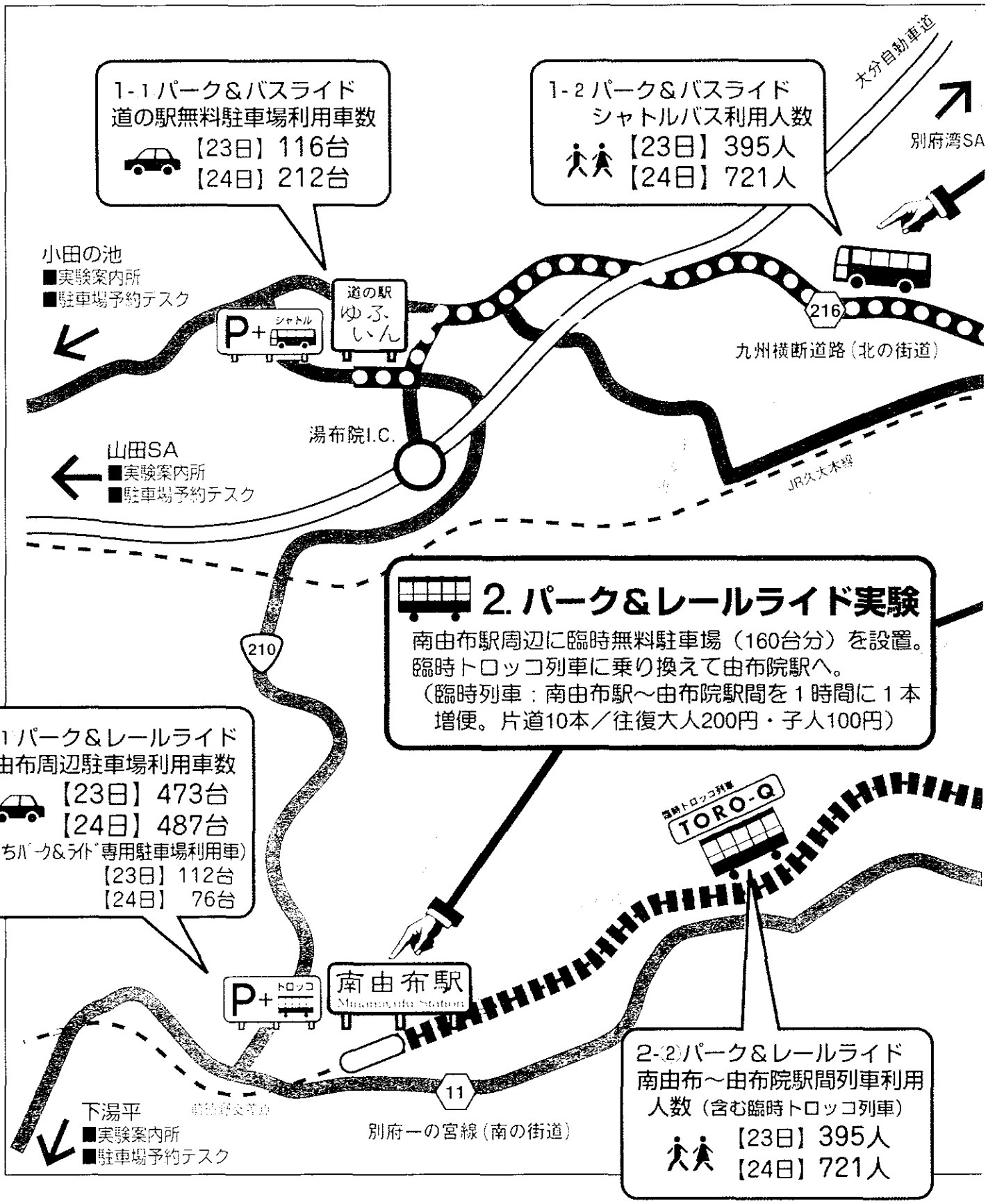
地元の方々は、お年寄りの方々にご案内

実験メニュー参加者は、アンケート調査に協力

パーク＆バスライト実験には専用シャトルバスを運行

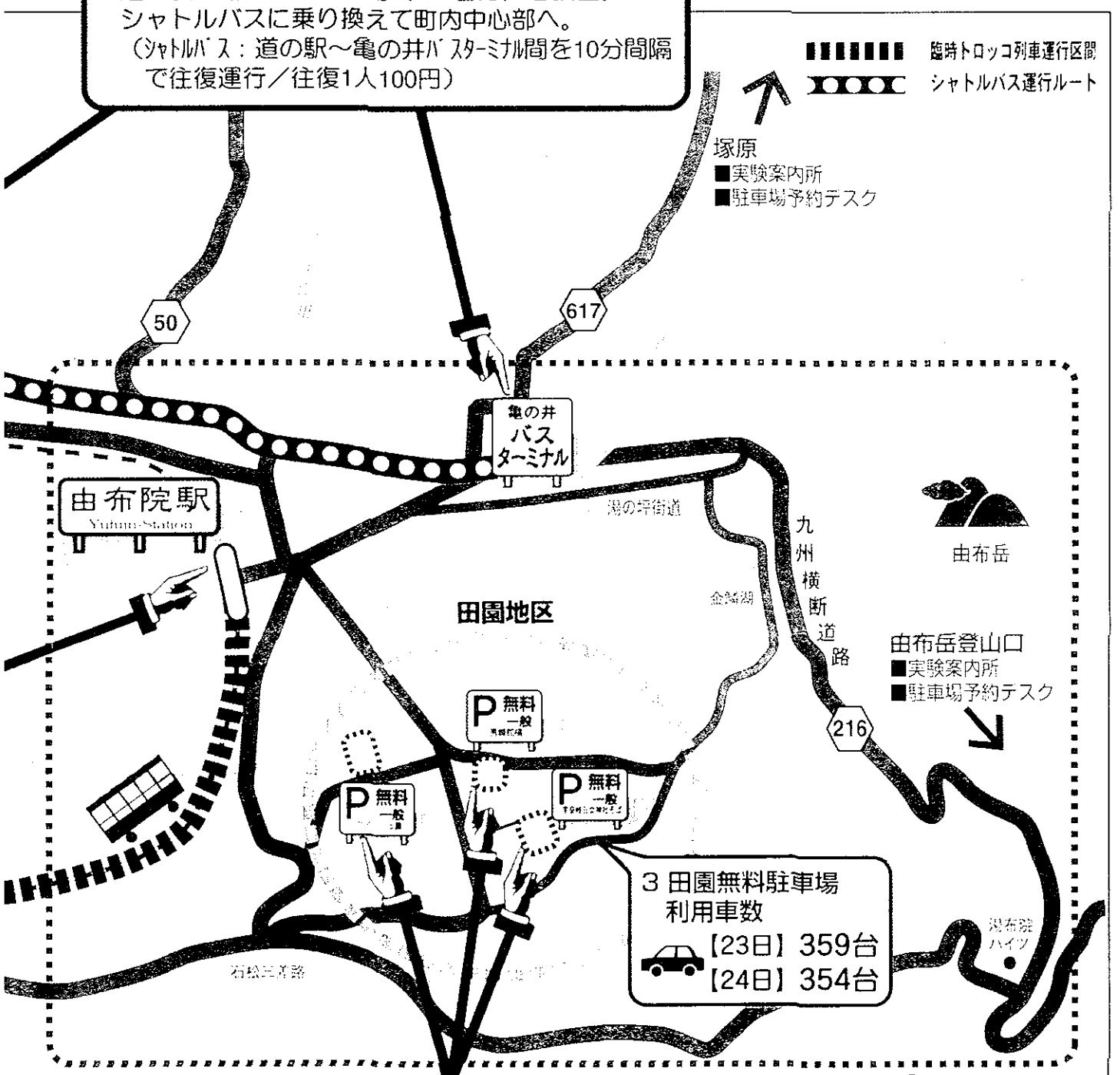
道の駅内に設置された実験案内

3-1. 各実験メニュー別利用者数・実験概要図（広域）



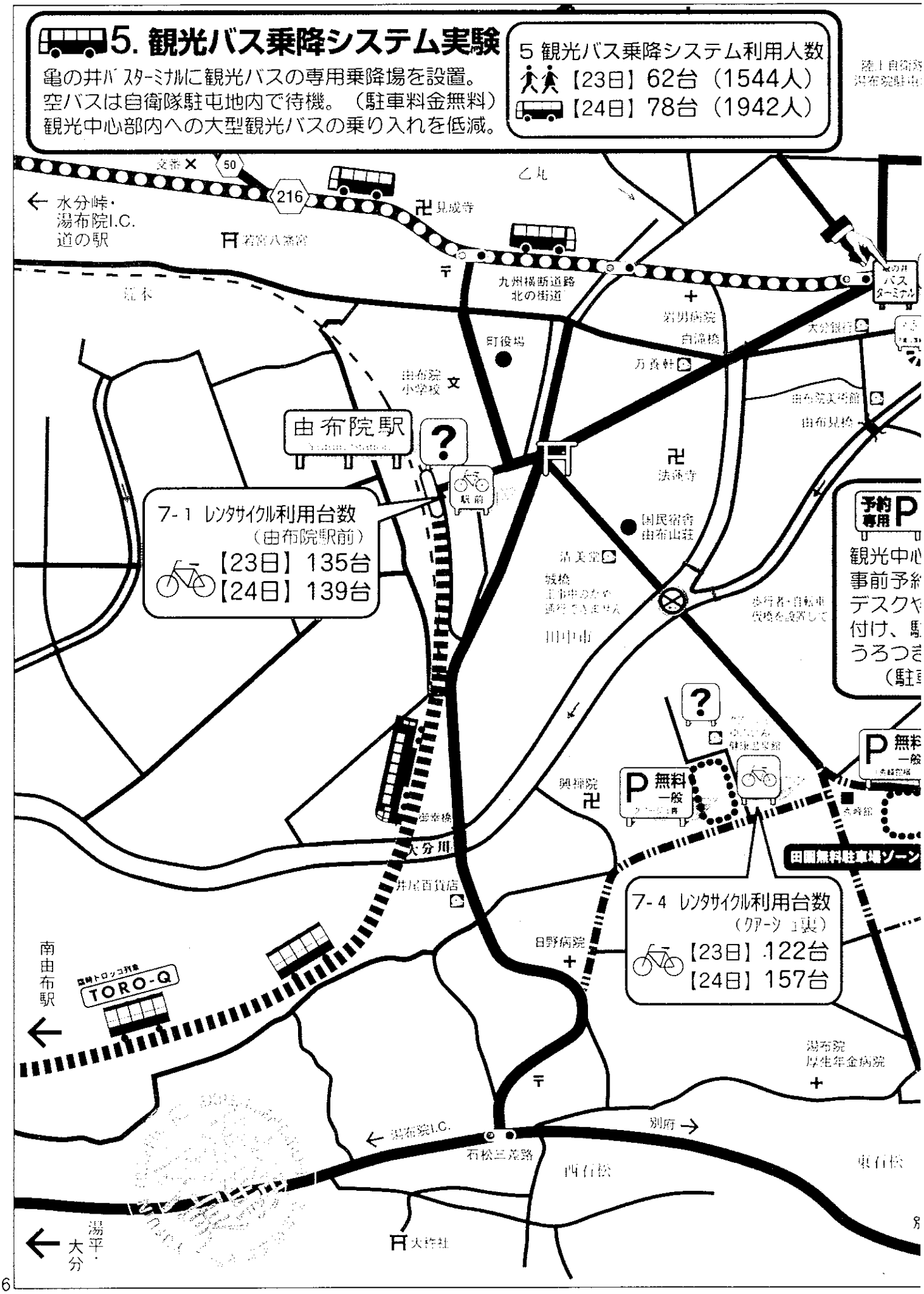
1. パーク&バスライド実験

道の駅に臨時無料駐車場（200台分）を設置。
シャトルバスに乗り換えて町内中心部へ。
（ｼｬﾄﾙﾊﾞｽ：道の駅～亀の井ﾊﾞｽﾀｰﾐﾅﾙ間を10分間隔で往復運行／往復1人100円）



3. 田園無料駐車場設置実験

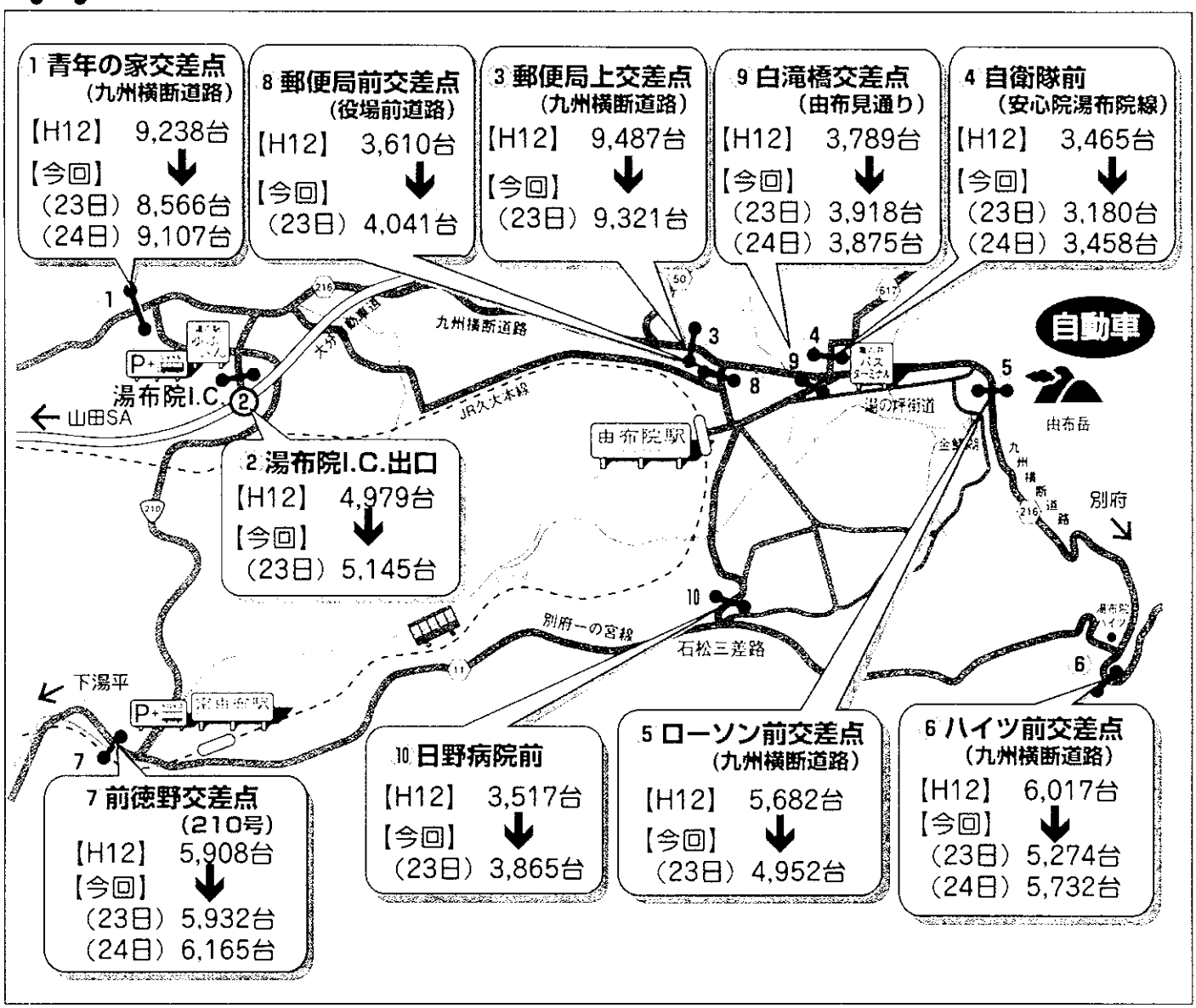
田園地区に臨時無料駐車場（３箇所：約200台分）を設置。観光中心部までのアクセス手段として、レンタサイクルを用意。


5. 観光バス乗降システム実験
亀の井バスターミナルに観光バスの専用乗降場を設置。
空バスは自衛隊駐屯地内で待機。（駐車料金無料）
観光中心部内への大型観光バスの乗り入れを低減。
5 観光バス乗降システム利用人数
【23日】62台（1544人）
【24日】78台（1942人）
水分峠・
湯布院I.C.
道の駅
216
50
見成寺
九州横断道路
北の街道
亀の井
バス
ターミナル
町役場
由布院
小学校
由布院駅
駅前
7-1 レンタサイクル利用台数
（由布院駅前）
【23日】135台
【24日】139台
法泉寺
国民宿舎
由布山荘
予約
専用
観光中心
事前予約
デスクや
付け、駐
うろつき
（駐車
田中市
興禅院
無料
一般
田園無料駐車場ゾーン
大分川
井尾百貨店
7-4 レンタサイクル利用台数
（クアーシャ裏）
【23日】122台
【24日】157台
日野病院
南由布駅
TORO-Q
湯布院
厚生年金病院
湯布院I.C.
石松三差路
別府
西石松
東石松
大神社
湯平・
大分

7-2 3 レンタサイクル利用台数
（見晴公園前）（民芸村前）
【23日】64台 43台
【24日】71台 34台
6. 観光自動車の乗入制限実験
観光中心部の一部区間で観光自動車の乗り入れを制限。(10:00～16:00)
●「オオタとこや」前～「富士食品」前
●「角柱」前～「オルゴールの森」前
●「はかりや」前～「樓屋」前
歩行者や自転車が安心できる道路環境を実験的に体験。
地元生活車及び業務車等には事前に通行証を発行。
蒸気トロッコ列車運行区間
シャトルバス運行ルート
一般車進入制限区間
田園無料駐車場への誘導ルート
予約専用駐車場ゾーン
田園無料駐車場ゾーン
予約専用駐車場
田園無料駐車場
レンタサイクル貸出・返却所
交通実験案内所
4. 駐車場予約システム実験
部の主だった駐車場を
制に。町内各所の予約
電話で事前予約を受け
車場探しや満車による
交通を軽減。
料金1台1回500円）
4 駐車場予約システム
利用車数（5箇所計）
【23日】387台
【24日】448台
7-5 レンタサイクル利用台数
（宇奈岐日女神社そば）
【23日】120台
【24日】100台
7. レンタサイクル実験
町内5箇所にレンタサイクル貸出・返却所を設置。
5箇所の貸出・返却所のどこで借りても、どこに返却しても自由。
（利用料金:500円/1日何度でも利用可能）
塚原
617
216
11
金鱗湖
佛山寺
九州横断道路
別府
予約専用 P A
予約専用 P B
予約専用 P C
P 無料 一般

3-3. 主要交差点における自動車交通量の変化（H12との比較）

調査日【H12】2000年11月19日(日)
【今回】2002年11月23日(土)・24日(日)



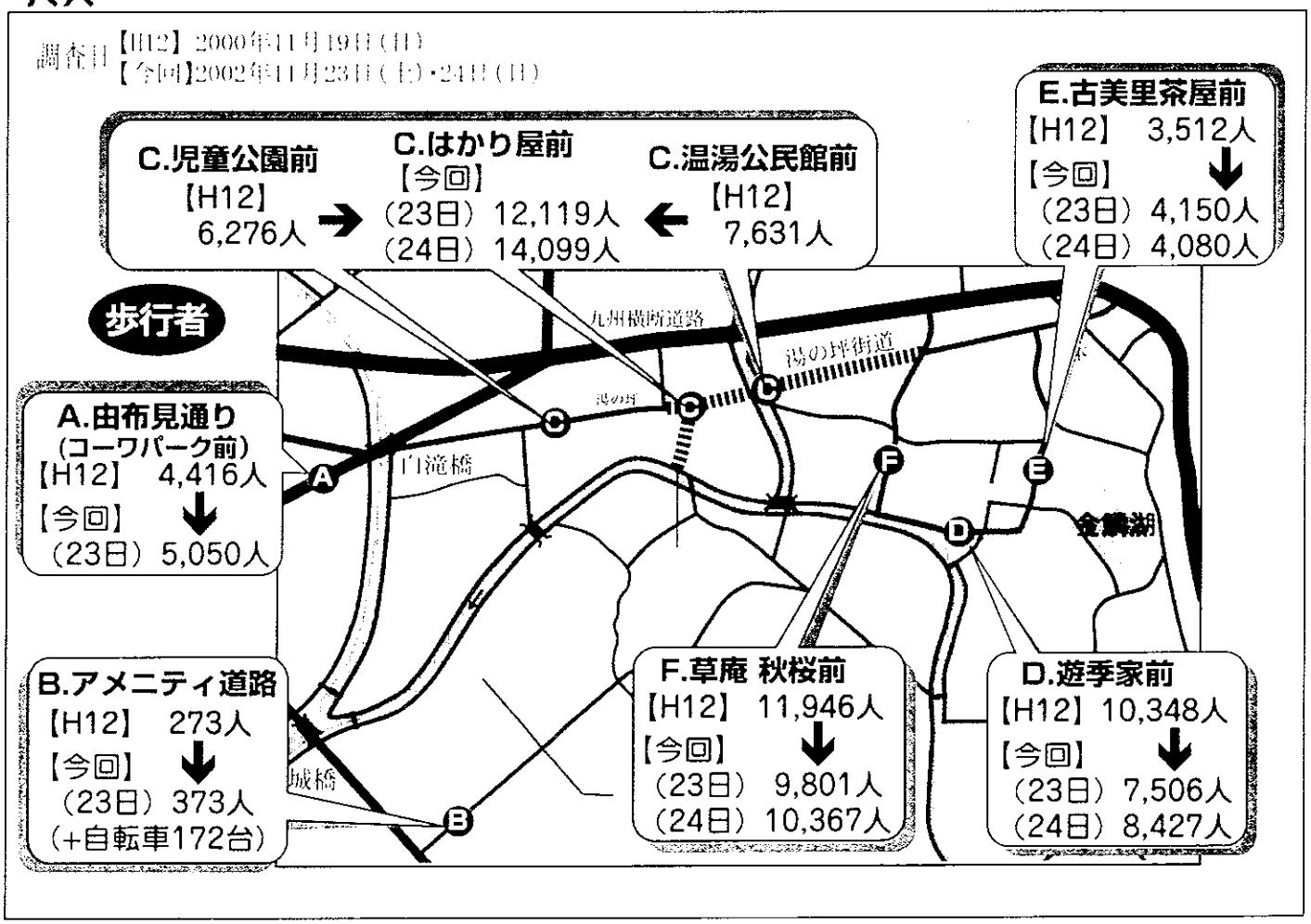
町内に入る手前で、看板等によりドライバーには事前予告

駅前から湯の坪方面に向かう車の列

JR由布駅周辺に臨時駐車場を確保。車を降めて列車に乗り換え

3-4. 主要地点における歩行者通行量の変化（H12との比較）

観光バス乗降システム実験で、大型観光バスの乗降地点を動かしたことで、観光中心部の人の流れが大きく変わりました。また観光車両の進入制限によって、歩行者には歩いて楽しい空間を体験していただきました。



人で賑わう湯の坪街道。車を気にせず、のんびり歩けた

大型観光バスの乗降場所を動かしたことで、人の流れが大きく変化

町内各所で車と人の交通量を数え、実験の効果を測定

地元関係車両等には、通行証を出して通行できるようにした

4. 交通実験の評価　～交通実験をしてわかったこと～

主な評価結果：①様々な実験メニューを組み合わせた「パッケージ型」の交通実験をすることで、総合的な効果が得られた。
②湯布院のまちは「歩いて楽しむまち」であることについて、総論としての賛成が得られた。
③町民ボランティアの多数参加と多彩なメニューの総合的実施は、我が国随一の実験であった。

交通社会実験の評価は湯布院町総合交通計画委員会（委員長/樗木武:九州大学名誉教授）が中心となってとりまとめられ、湯布院町の交通問題解決に果たす実験施策の評価、個別の実験メニューの実施可能性の評価等が行われました。上記の主な評価結果をふまえて、次の様なことが指摘・整理されました。

①今回の交通実験では、観光客の立場からは約9割近くの圧倒的支持を得られた一方、地元住民や事業者の立場からは約5～6割程度の支持にとどまっており、観光客と地元住民・事業者の評価の結果に大きく差が表れた。（☞参照p.12～13）
②行政・町民・事業者・観光客など色々な人がそれぞれの立場の違いを理解しつつ、「湯布院町総合交通計画」の検討を始める必要がある。
③今後検討する計画の内容には、この実験で得られた成果（検討課題、論点など）を反映させる努力が必要である。
④実験としては実施可能なメニューであっても、実際の施策として実施するには課題事項も多く、町民等との協働による計画づくりの中で、比較的合意形成が図られやすいものに関しては、積極的に実施に向けての展開を目指すよう、望まれる。

4-1.　問題・課題別に見た実験の評価

交通実験を行った結果、湯布院の交通問題・課題について次の様な評価が得られました。

(1) 県道（別府－湯布院線）の交通渋滞には…

●パーク＆（バス・レール）ライド実験によって夕方ピーク時の自動車交通量は約5％軽減。
●観光目的だけではない通過交通が渋滞の基本原因では…。

・道の駅および南由布駅で行われたパーク＆（バス・レール）ライド実験によって、県道別府－湯布院線の夕方ピーク時の自動車交通量は約5％軽減しました。
・ただし、湯布院町中心部周辺の幹線道路に流入した台数は約7,000台/8時間ありましたが、駐車場等の利用状況からすると、これらの全てが観光目的の自動車であるとは思われません。
・つまり別府－湯布院線には湯布院を通過する交通が多量にあり、これが渋滞の基本原因であると考えられます。この通過交通による渋滞解消の方法は今後の検討課題として残されました。

シャトルバスは10分間隔で運行

臨時トロッコ列車は大人気

(2) 町内観光中心部の交通混雑には…

●湯の坪街道への流入自動車交通量は約52％に軽減。
●盆地内の交通混雑緩和に実験効果があった。

・湯の坪街道への流入自動車交通量は、1112年時の調査に較べて約52％に減らすことができました。（2,213台→1,267台）
・観光中心部主要道路の交通量は全体に8％増加しましたが、特段の混雑や混乱は発生しておらず、今回の実験によって盆地内の交通混雑の緩和に効果があったものと評価できました。
・案内する側やドライバー側がこの様な実験メニューにもっと慣れていれば、盆地内交通量は更に減っていたものと思われます。

大型観光バスを誘導・案内するスタッフ

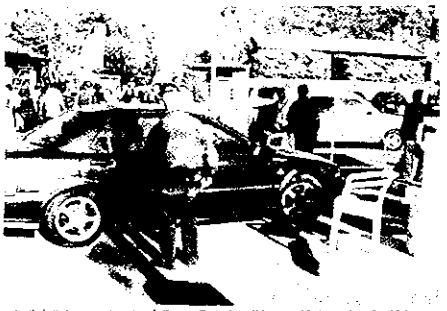
進入制限区域の外では、人と車が混雑

湯布院観光はのんびり歩いて…

大型観光バスの乗降システム実験

田園駐車場からはレンタサイクルを貸出

多くの利用車でいっぱいの田園駐車場


実験時、中心部の駐車場は予約車専用に

(3) 湯の坪街道、金鱗湖、民芸村周辺の交通混乱状況については…

●湯の坪街道の観光車両進入制限実験は観光客の9割から歓迎された。
●一方、地区住民の半数以上は進入制限実験については「どちらとも言えない」「分からない」或いは「回答せず」だった。

・湯の坪街道で、観光車両の進入制限実験をしたことによって、この区間ではほぼ全面的に観光車両の交通は削減されました。
・これにより歩行者は安全で快適な道路環境を楽しむことができ、ほぼ9割の観光客から観光車両進入制限は歓迎されました。(☞参照p.13)
・しかし一方、地区住民の方々のご意見としては、観光車両進入制限を実施することについては46%の方が賛成されたものの、制限する区間や具体的な対策内容については問題点を指摘する声も多くありました。
・また地元住民の半数以上の方は、進入制限をすることの賛否について、「どちらとも言えない」「分からない」或いはこの質問には回答しておらず、今回の結果を再度検証し、人と車が折り合うための具体的な方法やこの道のあり方について、改めて地区住民の方々と一緒に検討していく必要があります。

(4) 徒歩による回遊が減少してきていることについては…

●観光バスの乗降場所を動かしたことで人の流れが大きく変化した。
●今回の交通実験により、観光客の回遊行動は増加した。

・大型観光バスの乗降地点を意図的に動かしたことで、人の流れが大きく変わり、特に湯の坪[illegible]（はかりや前）付近の歩行者はほぼ倍増しました。一方、大分川沿いの金鱗湖付近等は2割程度減少しました。
・湯の坪・駅本地区4箇所の合計値でみると約6%程度増えており、今回の交通実験により観光客の回遊行動は増加したと言えます。
・また由布見通り、田園地区を含めた全体でも約7%ほど歩行者の通行量が増えています。
・ただし、大型観光バスの乗降位置によっては人の流れを大きく左右し、沿道の商売にも影響を与えることから、地元の住民や事業者の方々と一緒に慎重な検討を進めていかなくてはなりません。

(5) 田園地区を回遊することについては…

●田園地区を回遊した観光客の数は倍増。
●田園駐車場とレンタサイクルの提供が田園地区の観光客を増やした。

・田園地区を回遊する観光客の増加は、今回の交通実験の重要な目的の一つでした。今回の実験で1日約1,200人の人が田園駐車場を利用しました。うち約250人がレンタサイクルを利用し、残り約950人は田園駐車場から観光中心部までの田園風景の中を歩いて回遊しました。
・今回の調査では田園地区を回遊する観光客の正確な人数は計測できなかったものの、観光客のアンケート調査によると、田園地区を回遊した観光客数は普段の休日に較べて11%～21%と倍増しました。
・田園無料駐車場の提供とレンタサイクルを組み合わせた実験メニューにより、田園地区内の観光客は明らかに増加したものと評価できます。

(6) 駐車場不足については…

●町内に既にある駐車場の活用方法を工夫し、観光客の徒歩による回遊を増やして車による移動を減らせば、これ以上中心部の駐車場を増やす必要はあまりない。

・今回の実験で提供した駐車場の総数は約855台、総回転数は23日は約1.1回転、24日は約1.2回転でした。ピーク時間にはほぼ全ての駐車場が100%の満車状態となりましたが、駐車場待ち行列の発生はありませんでした。
・いま町内に既にある駐車場の活用方法を工夫し、田園駐車場の供給や、道の駅・南由布駅でのパーク&ライド駐車場の提供等を組み合わせれば、中心部の駐車場を特に増やす必要はあまりないと思われます。
・また、実験時には同じ車が駐車場から駐車場へ移動する回数を減らすことができたため、町内のうろつき交通を削減することができました。

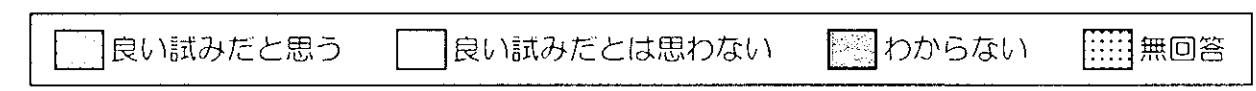
4-2. アンケート調査結果からみた実験の評価

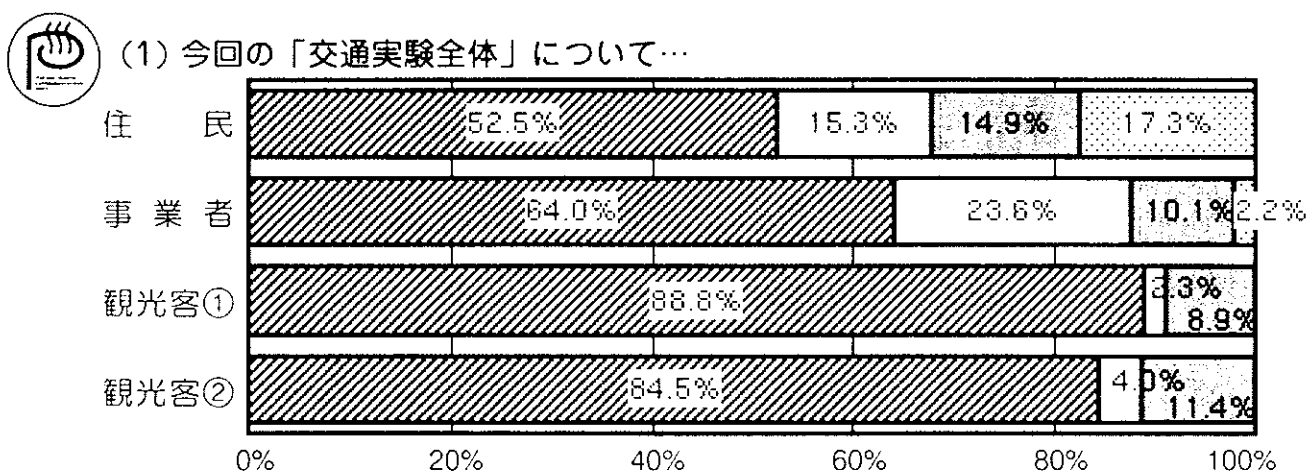
今回の交通実験について、地区住民、事業者、観光客を対象にアンケート調査を行った結果、各実験メニューについて以下の様な評価が得られました。

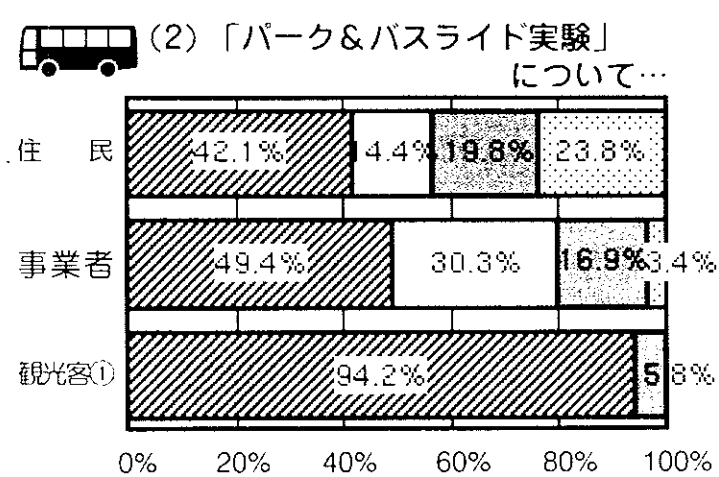
観光客と、地元住民や事業者の評価結果に大きな違い！

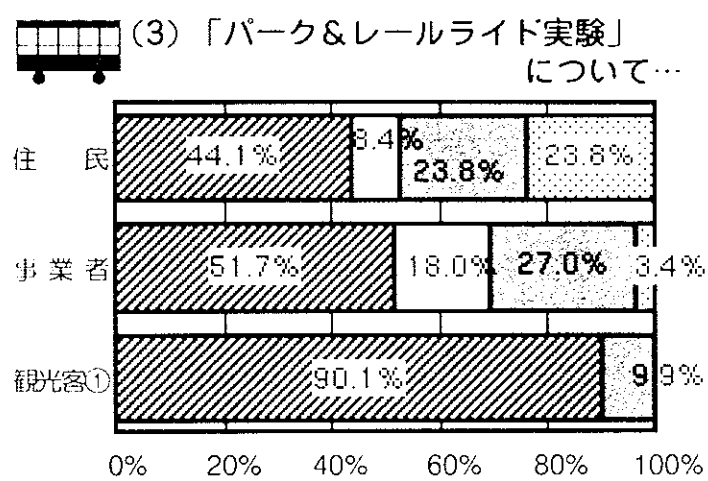
- 今回の交通実験全体について、「良い試みだと思う」と評価しているのは住民の52.5%、事業者では64.0%であるのに対して、観光客では約9割が圧倒的な支持を示しており、実験全体について地元住民や事業者と観光客の評価には大きな違いが表れました。
- 特にﾊﾟｰｸ&ﾗｲﾄﾞ実験と観光車両の乗り入れ制限についてはその差が著しく、観光客の９割近くが「良かった」或いは「また協力してもよい」と評価しているのに対し、地元住民や事業者は半数近くが「良い試みだと思わない」、「わからない」、或いは無回答でした。
- ただし、住民や事業者からも「今後も継続的に交通問題について検討してもらいたい」という自由意見が多く寄せられており、今後は観光客から得られた圧倒的支持と地元住民・事業者との意見のすり合わせが必要です。

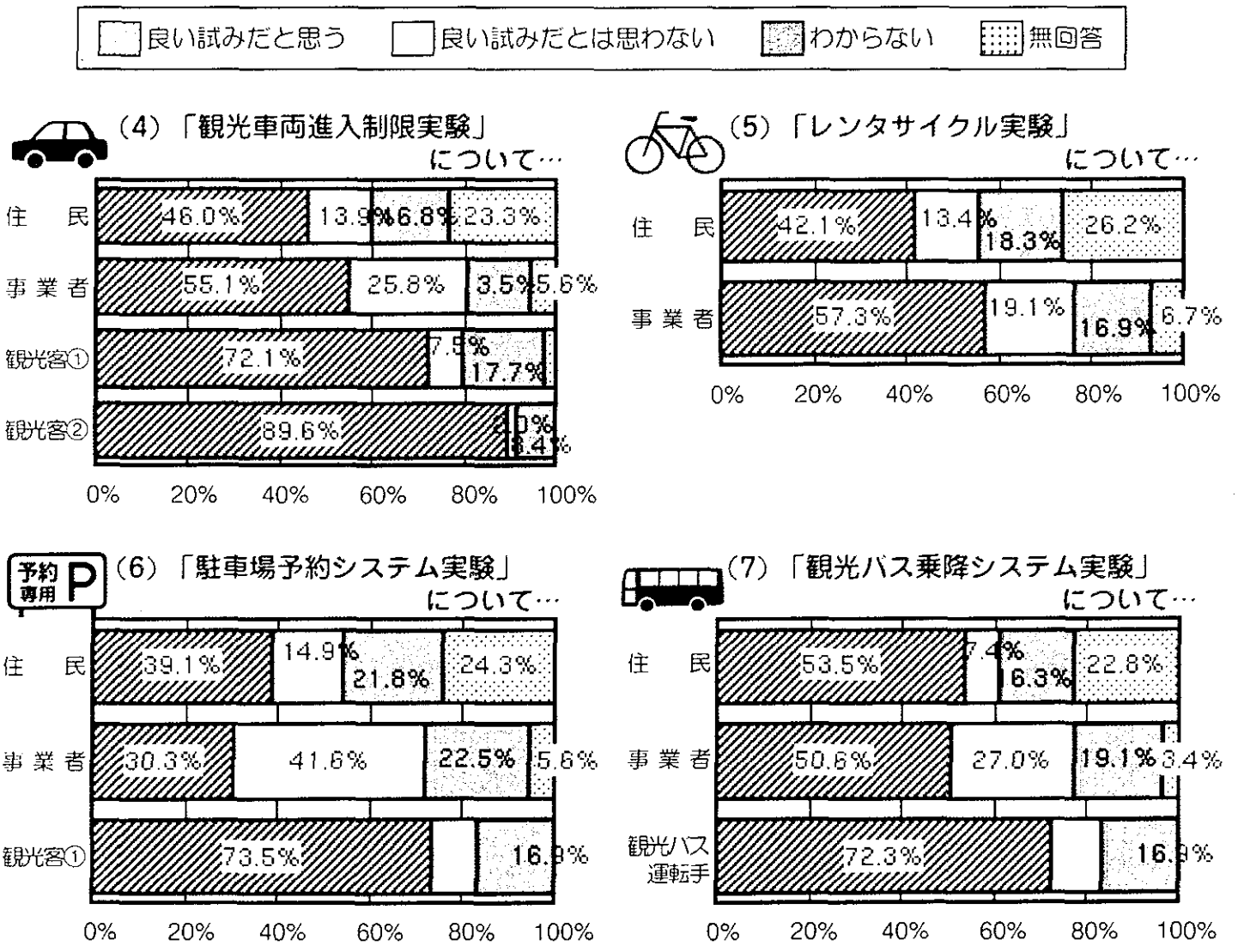
（各アンケート調査の対象者について）
住　民：湯の坪・居本地区住民（有効回答数202件）
事業者：湯の坪街道周辺事業者（有効回答数86件）
観光客①：ﾊﾟｰｸ&ﾗｲﾄﾞ・予約専用駐車場・観光バス乗降システムの各実験メニューを利用した観光客。
　　但し、観光バス乗降システムについてはバス運転手が対象（有効回答数1182件）
観光客②：町内各所で行ったヒアリング調査に答えていただいた観光客（有効回答数410件）
※観光客対象のアンケートについては「今後同じ実験メニューが実施された場合、協力できるか？」という設問で調査。



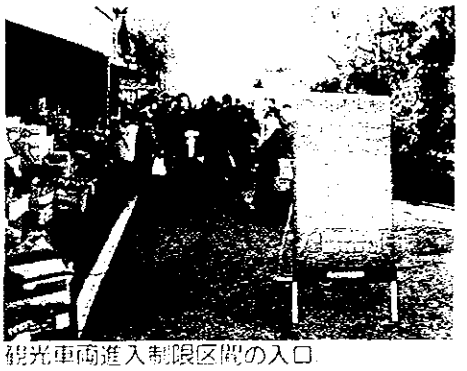








今回、観光客と地元住民・事業者の評価には大きな違い


観光車両進入制限区間の入口

道の駅からシャトルバスにのって観光中心部に到着。ボランティアがご案内

南由布駅前に車を停めて、列車に乗り替えた観光客でにぎわうトロッコ列車の内部

実験参加者等のアンケート結果は、今後の貴重なデータに

大型観光バスは、お客さんを降ろしたら専用待機所（自衛隊駐屯地内）へ

5. 今後のすすめ方　～これからの湯布院町の取り組みについて～

湯布院町では、これまでの交通問題に関わる各種活動や取り組み、実験の結果・成果等をふまえて、今後「総合交通計画」づくりを中心として、町全体のまちづくりの一環とした取り組みを進めていきます。

～これまでの取り組み～

- H11.11月　交通（調査）実験（人と車がおりあった湯布院の交通のしくみを考える会）
- H12.11月　交通（案内・誘導）実験（人と車がおりあった湯布院の交通のしくみを考える会）
- H13. 3月　湯布院の交通問題に関する「７つの提案」を町長・知事に提出
- H13. 8月　「ゆふいん人と車のおりあいMAP」作成・配布事業

↓

- H14.11月　交通実験（湯布院町まちづくり交通対策協議会）

↓

～今後の取り組み～

- H15年度～　**「湯布院町総合交通計画」づくり**

国・県の支援事業を受けながら進めます。

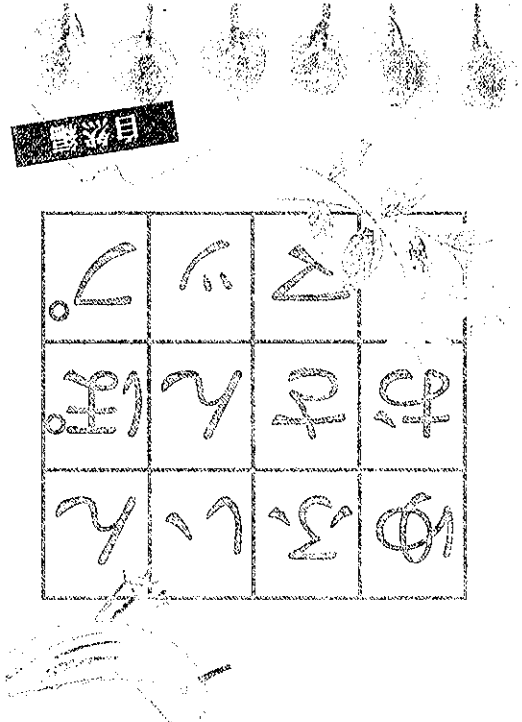
●今後の湯布院町の交通施策のための総合的な計画づくり
今後の湯布院町の交通問題について、町全体として何を、どの様に取り組んでいけばよいのか、その基本となる総合的な計画をつくります。
また、計画策定のために更に必要な調査等を行います。

●具体的施策・事業へのとりくみ、実施
計画づくりの中で、すぐにでも取りかかれる事業、或いは地元関係者や住民の方々と合意形成が得られやすいものについては、計画づくりと同時並行で積極的に実施していきます。

●地元住民、関係者等との組織づくり
町民や関係者をはじめ多くの方々と一緒に今後の交通問題に取り組むための組織や機会をつくっていきます。

まちなみ整備や環境・景観整備（建物・看板など）・土地利用計画など、町の様々な課題を含めた、総合的なまちづくりの取り組みとして進めていきます。

『歩いて楽しいまちを目指して…』
～平成14年度湯布院町交通実験報告書（概要版）～
発　行：平成１５年３月
湯布院町まちづくり交通対策協議会
事務局：湯布院町 総合政策局
大分県大分郡湯布院町川上3738-1
TEL 0977（84）3111　FAX 0977（85）2643
http://www.town.yufuin.oita.jp



information

情報センターのご案内

由布院観光総合事務所

〒879-5102　大分県大分郡湯布院町川上2863
クアージュゆふいんぷ内

TEL0977・85・4464　FAX0977・85・4465

E-mail info@yufuin.gr.jp
URL.　http://www.yufuin.gr.jp

夏

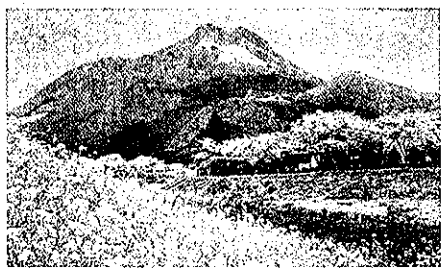
由布岳裾野のアジサイ⑤

田んぼの中の道から見た由布岳と田園風景⑥

道沿いや山肌にも見つけられるネムノキ

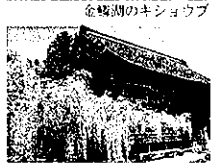
金鱗湖や城橋中州などで時折カワセミの姿も

春



由布岳と桜と菜の花①

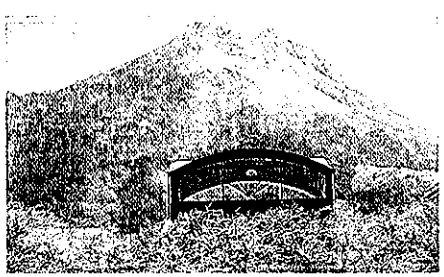
金鱗湖のキショウブ



南由布駅近くの西蓮寺のフジ②

みつまた

冬



由布院駅と由布岳③

長岡寺付近の線路沿いに咲くコブシの花

見成寺のちり椿

秋

南由布駅そばの線路沿いに咲くキバナコスモス③

蛇越峠から見る由布岳と朝霧とススキ④

＊写真に付いている番号は、中面の地図に場所を記入してあります。

how to use

おさんぽマップの利用の仕方

由布院の魅力は、温泉、文化、そしてこれらを支える自然です。この地図は、由布院で出会える樹木、草花、動物、鳥などを紹介しています。ゆっくり歩いて、ぜひもうひとつの由布院をみつけてください。

＊

おさんぽコースのご案内

1　四季折々の花を楽しむために。

地図の中の　マークが付いている場所を訪ねてください。　マークには、どんな花が咲くかを書いてありますので、季節を確かめて。桜やコスモス、菜の花は、　のマークの場所に。

2　もうひとつの由布岳のビューポイントを探して。

由布院のシンボルでもある由布岳は、どこから見ても美しいのですが、季節感をより感じられ、素晴しさもひときわの由布岳のビューポイントを地図中に　で記しています。

3　水と親しむこと。

金鱗湖をスタート地点にして、由布院盆地の中を流れる大分川沿いを歩いてみましょう。川沿いの道と記されていて、鳥や魚たちの姿を目にすることもできます。

4　大きな木立を求めて。

由布院には、天然記念物に指定されている大木が神社や仏閣にいくつかあります。そこには、大きな木が涼しい木陰を作り、夏は蝉時雨の大合唱。地図中に点在する濃い緑を目印に訪ねてください。おいしい水が飲める所もあります。

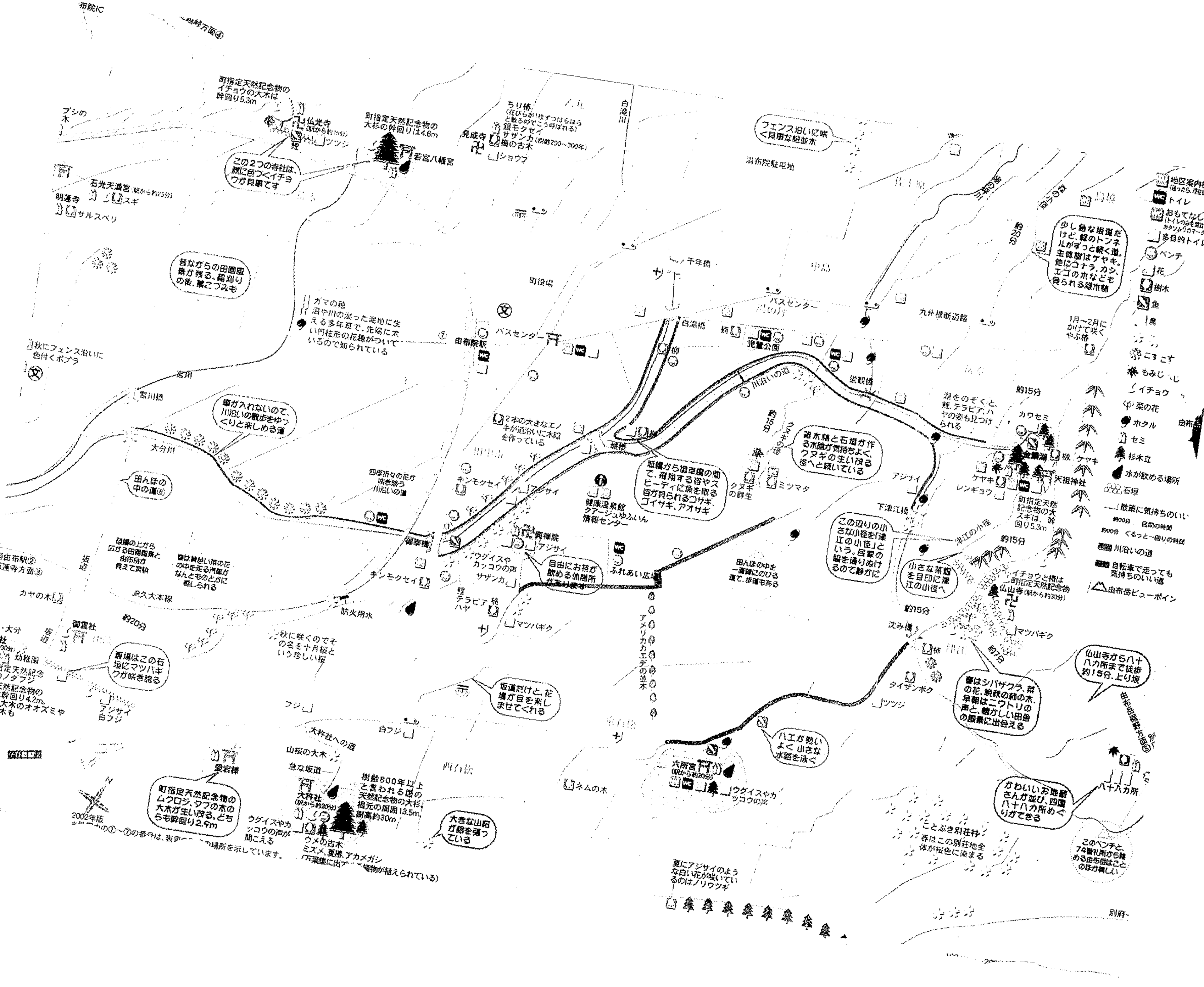
5　田園風景を楽しむ田んぼの中の道を。

由布院には、まだ田や畑がたくさん残っています。田んぼの中を一直線に伸びる道や川沿いの畔道は、気持ちのいい開放感いっぱいの散歩道です。

6　色づくイチョウ・モミジを見に。

秋は黄色く色づいたイチョウ・モミジ見物がおすすめです。
地図中の　マークを目印に出かけてください。

＊樹木や草花を大切に



布院IC
町指定天然記念物のイチョウの大木は幹回り5.3m
仏光寺
ツツジ
この２つの寺社は、秋に色づくイチョウが見事です
町指定天然記念物の大杉の幹回りは4.6m
若宮八幡宮
ちり椿
見成寺
銀モクセイ
サザンカ
梅の古木
ショウブ
白滝川
フェンス沿いに咲く見事な桜並木
湯布院駐屯地
石光天満宮
スギ
明蓮寺
サルスベリ
昔ながらの田園風景が残る。稲刈りの後、藁こづみも
ガマの穂
沼や川の湿った泥地に生える多年草で、先端に太い円柱形の花穂がついているので知られている
町役場
千年橋
バスセンター
由布院駅
秋にフェンス沿いに色付くポプラ
宮川
宮川橋
車が入れないので、川沿いの散歩をゆっくりと楽しめる道
大分川
田んぼの中の道
白滝橋
児童公園
川沿いの道
九州横断道路
少し急な坂道だけど、緑のトンネルがずっと続く道。主体樹はケヤキ。他にコナラ、カシ、エゴの木なども見られる雑木林
1月～2月にかけて咲くやぶ椿
地区案内板
トイレ
おもてなしトイレ
多目的トイレ
ベンチ
花
樹木
魚
鳥
こすこす
もみじ
イチョウ
菜の花
ホタル
セミ
杉木立
水が飲める場所
石垣
散策に気持ちのいい道
川沿いの道
自転車で走っても気持ちのいい道
由布岳ビューポイント
蛍観橋
湖をのぞくと、鯉、テラピア、ハヤの姿も見つけられる
約15分
カワセミ
金鱗湖
天祖神社
ケヤキ
町指定天然記念物の大スギは、幹回り5.3m
2本の大きなエノキが道沿いに木陰を作っている
四季折々の花が咲き競う川沿いの道
城橋
健康温泉館 クアージュゆふいん 情報センター
城橋から御幸橋の間で、飛翔する容やスピーディに魚を取る姿が見られるコサギ、ゴイサギ、アオサギ
雑木林と石垣が作る木陰が気持ちよく、クヌギの生い茂る径へと続いている
クヌギの群生
ミツマタ
アジサイ
下湯江橋
レンギョウ
この辺りの小さな小径を「津江の小径」という。民家の軒を通りぬけるので静かに
小さな茶畑を目印に津江の小径へ
津江の小径
約15分
キンモクセイ
御幸橋
興禅院
ウグイスやカッコウの声
自由にお茶が飲める休憩所
ふれあい広場
田んぼの中を一直線にのびる道で、歩道もある
イチョウと椿は町指定天然記念物
仏山寺
南由布駅②
西蓮寺方面③
坂道
川上の上から広がる田園風景と由布岳が見えて素敵
春は黄色い菜の花の中を走る汽車がなんとものどかに感じられる
JR久大本線
カヤの木
サザンカ
テラピア
ハヤ
防火用水
マツバギク
約15分
沈み橋
湯平・大分
御霊社
天満社
約20分
石垣はこの石垣にマツバギクが咲き誇る
町指定天然記念物のノダフジ
指定天然記念物の幹回り4.2m、手には大木のオオスミヤ、タブの木も
アジサイ
白フジ
秋に咲くのでその名を十月桜という珍しい桜
アメリカカエデの並木
坂道だけど、花壇が目を楽しませてくれる
フジ
白フジ
大杵社への道
山桜の大木
急な坂道
樹齢800年以上と言われる国の天然記念物の大杉、根元の周囲13.5m、樹高約30m
大杵社
愛宕様
町指定天然記念物のムクロジ、タブの木の大木が生い茂る。どちらも幹回り2.9m
ウグイスやカッコウの声が聞こえる
ウメの古木
ミズメ、夏椿、アカメガシ
大きな山桜が路を彩っている
2002年版
タイザンボク
ツツジ
ハエが数いよく小さな水路を泳ぐ
六所宮
ウグイスやカッコウの声
ネムの木
春はシバザクラ、秋の花、晩秋の柿の木、早朝はニワトリの声と、懐かしい田舎の風景に出会える
仏山寺から八十八カ所まで徒歩約15分、上り坂
由布岳登山口方面⑤
かわいいお地蔵さんが並び、四国八十八カ所めぐりができる
八十八カ所
ことぶき別荘村
春はこの別荘地全体が桜色に染まる
このベンチと、74番札所から眺める由布岳はことのほか美しい
夏にアジサイのような白い花が咲いているのはノリウツギ
別府

JICA
ジャイカ